

## セルコートアグリ Q&A

### ◆害虫除去について

Q1 どうして害虫が除去されるのですか？

A1 セルコートアグリを水で溶かして薄く害虫の体に散布するとオブラートのように薄い膜で害虫の体が包まれて呼吸ができなくなります。

Q2 害虫が呼吸できなくなるのに植物は呼吸できるのですか？

A2 動物と植物とでは呼吸の際に必要な空気量が動物の方がはるかに多く植物は僅かな空気量で呼吸することができます。

薄いセルコートアグリの被膜は少ない量の空気を通すので植物は影響を受けることなく呼吸が可能となります。

Q3 肥料なのに害虫対策がとれるのですか？

A3 肥料として使用していましたが、害虫がつかなくなり食害も受けず害虫も除去できることがわかってきました。

Q4 セルコートアグリを予防対策として使用できますか？

A4 肥料の働きと共に10a当り200ℓ(畑の場合)、植木は高さ3mの木で4ℓ位散布しますと病害虫がつかなくなります。

Q5 植木(桜)でアメリカシロヒトリ・イラガ・チャドクガが発生した場合について

A5 アメリカシロヒトリは25倍の水で溶かし、シーテンを1000倍にして葉から少し落ちる程度の散布量です。

イラガ・チャドクガは15倍の水で溶かし、シーテンを1000倍にして葉から少し落ちる程度の散布量です。

※散布量が多すぎると害虫駆除効果が発揮できなくなります。

Q6 散布量が多いと害虫除去できなくなる理由

A6 害虫の体の周りにセルコートの被膜ができるのが遅くなり、虫が体を動かしてセルコートアグリを落としてしまいます。

Q7 散布量が葉から少し落ちる程度だとどうしてよいのか？

A7 害虫に付着したセルコートアグリがすぐ乾き(3分位)、呼吸ができなくなり害虫が除去できます。

### ◆植物・果実への効果について

Q1 果実、トマトに使うとどうなりますか？

A1 サクランボは収穫10～15日前にセルコートアグリを5倍の水に溶かして散布しますと実割れ防止が可能です。

トマトの場合は収穫5日前に10倍の水に溶かして散布しますと実割れ防止が可能です。

Q2 イチジクに使用することはできますか？

A2 イチジクの実が熟して実が割れ始めた時にセルコートアグリを25倍に薄めて散布していただきますと、スリップスが実の割れ目に入らなくなります。

Q3 ブロッコリーに使うとどうなりますか？

A3 ブロッコリーが10cm位になったときから15～20日に1回、25倍に溶かしたセルコートアグリを10aあたり2000散布します。すると害虫がつかず軸まで美味しいブロッコリーを作ることができます。

Q4 葉菜類に使うとどうなりますか？

A4 セルコートアグリを25～30倍の水で溶かし、5～7cm位まで15日に1回散布していただき、大きくなったら50倍の水で溶かし15日に1回散布していただくとミネラルが吸収され、美味しい葉菜類ができます。

Q5 具体的にトマトの散布する手順を教えてください。

A5 1. 苗の時にセルコートアグリを25倍に溶かしてたっぷり散布してから定植していただきます。

2. 定植後成長し20cm位になったら10a当たり1200散布します。その後20cm位ごとに散布します。

3. その後成長が止まりましたら新芽が出たところだけを散布します。

4. シルバーリーフコナジラミが発生した場合、かけすぎず表裏にムラなく散布し2～3回30分おきについているところだけ散布して下さい。

Q6 イチゴに使用するとどうなりますか？

A6 観光イチゴのときはセルコートアグリを25倍の水に溶かして散布しますとより甘いイチゴになります。

それ以外のイチゴのときは10aあたり1200位の散布を15日に1回行ってください。

スリップスが発生しているときは、かけすぎず表裏にムラなく散布し30分後にもう一度散布します。ミネラル入りの美味しいイチゴができます。

Q7 バラの栽培にはどう使えばいいですか？

A7 シーテンを300～1000倍(ダニの種類によって濃度調整する)の水で溶かして散布し、ダニ・アブラムシを除去します。その後セルコートアグリを散布するとダニが発生しなくなり病気も発生しません。

#### ◆散布方法および散布量について

Q1 植木1本に対してどのくらい散布すればいいですか？

A1 高さ3mの木の場合、25倍の水で希釈したセルコートアグリを2.50散布します。  
高さ5mの木の場合、25倍の水で希釈したセルコートアグリを3.50散布します  
高さ10mの木の場合、25倍の水で希釈したセルコートアグリを80散布します。

Q2 高い木に散布するにはどうすればいいですか？

リフトを使用しないと散布できません。

散布器のノズルの先と木の間を1～1.5m位あけて散布するのが標準です。

Q3 低木にはどのくらい散布すればいいですか？

A3 2.5倍に薄めたセルコートアグリを1㎡あたり500ml散布して下さい。

葉から少しセルコートアグリが落ちる位が適量でポタポタ落ちるのはかけすぎです。

Q4 散布方法はどのようにすればよいですか？

A4 通常農薬を散布するノズルは120μmのものを使用するのが一般ですがセルコートアグリの場合はノズルを50～60μmのものにして、葉の表・裏にムラなく散布して下さい。

葉から少し落ちる位の量が最適です。

あまり多く散布すると害虫はなかなか死にません。一回散布して30分後に確認し、害虫がいる場合は、害虫がいるところだけ再度散布を行ってください。これは散布ムラを防止するためです。

Q5 セルコートアグリは一回散布すると、どの位もちますか？

A5 理論的には年一回の散布で良いのですが、10日以上経過するとセルコートアグリの被膜の上に害虫が付くことがあります。すでに被膜された葉に関しては食害を受けることはありませんが、新しくできた葉が侵されてしまいますので10日～20日に1回の散布が必要です。

Q6 セルコートアグリを何回かけても植物の成長に影響はありませんか？

A6 全く影響はありません。炭酸同化作用(光合成)にも影響はありません。

#### ◆農薬との併用について

Q1 農薬とセルコートアグリを混ぜることができますか？

A1 農薬の希釈率が1000倍のものならば3000倍に、希釈率が1500倍のものならば4500倍にしてセルコートアグリと混ぜて使用すると残留農薬がでません。

(通常の希釈量の3倍にすることで残留農薬を無くすことが可能です。)

Q2 農薬を散布した後にセルコートアグリを散布しても大丈夫ですか？

A2 農薬を散布した後にすぐにセルコートアグリを散布すると薬害が出て葉が枯れます。

14日位した後に散布するようにして下さい。

すぐに散布したい場合は、3%の食酢を散布すると農薬が落ちますので農薬を落とした後に散布を行うようにして下さい。

Q3 セルコートアグリを散布した後に農薬を散布しても大丈夫ですか？

A3 薬害により葉が枯れることはありません。しかしながら収穫の20日前以降に農薬を散布してしまうと残留農薬が出ますのでご注意ください。

Q4 セルコートアグリは農薬の登録はしてあるのですか？

A4 農薬ではないので登録しておりません。

ミネラルを吸収しやすくするための特殊肥料葉面散布剤として県を通して農水省に提出してあります。ミネラルを吸収し、細胞が活性化します。

◆展着剤との併用について

Q1 展着剤は必要ですか？

A1 植物の種類・害虫の種類によっては弾かれてしまうので必要となります。

(植物はトライコーム(毛状突起)等、害虫は繊毛等)

当社の食品添加物のシーテンが展着剤となります。

シーテンを1000倍に薄めて使用していただきます。

Q2 シーテンはどれくらい必要ですか。

A2 セルコートアグリ20kgに対して、シーテン500mlの割合です。

◆植物成長剤との併用について

Q1 植物成長剤とセルコートアグリを混ぜてもいいですか？

A1 混ぜることは可能です。植物成長剤を少なくすることができます。

3倍くらい薄めて使用していただくと持続性も3倍以上良くなります。

◆セルコートアグリの成分について

Q1 セルコートアグリは何からできているのですか？

A1 ハイドロキシプロピルメチルセルロースと地下深層水からとったミネラル(N u n r u A G)からできています。

日本薬局方でも人の口に入っても問題ないので許可されております。

また、食品添加物としても許可されています。

◆その他

Q1 セルコートアグリの保存期間はどのくらいですか？

A1 1年経ちますと少し浮遊物が発生する場合がございますが使用に問題ありません。

3年位は使用可能です。

Q2 セルコートアグリの安全性について

Q2 セルコートアグリは薬のカプセルの材料と同じであり、万が一人の口に入っても安全です。化学物質過敏症の人でも全く影響がありません。